

平泉町の毛越寺で16日夜、浄土庭園法灯会が営まれた。一山の僧侶による世界平和を祈る読経の中、さまざまな願いや供養の思いが込められた灯籠が「世界平和」「地球温暖化防止」「東

日本大震災復興」。

大泉が池に浮かべられ、一帯は夢幻の明かりに包まれた。



曰が暮れたばかりの水面には、それぞれの思いが書かれた800個を超える灯籠が柔らかな光を放ち、参拝者らは池のたもとで手を合わせ

て静かに祈った。

孫と一緒に参拝した近くに住む女性(84)は「きょうは送り盆、きのうは終戦の日。世界が平和で、ご先祖様が安らかでありますようにと願った」と話していた。灯籠の奉納金は全額、震災孤児や世界の恵まれない子供たちのため寄付される。

800個を超える灯籠が浮かべられた毛越寺浄土庭園大泉が池

## 平泉 祈りと共に 灯籠、夢灯り

# 古都彩る光 柔らかか

平泉町の「平泉 浄土のあかり」(平泉夢灯りの会、平泉まちてらす会主催)は16日夜、観自在王院跡を主会場に開かれ、約3000個の町民手作りの灯籠にともされた明かりが晩夏の平泉の町並みを彩った。

平泉らしい景観を創出しようと、今年で5回目の取り組み。町地域婦人団体協議会、平泉観光協会、町の協力で、観自在王院跡、毛越寺前をはじめ、JR平泉駅前、県道平泉停車場中尊寺線(通称・中尊寺通り)、中尊寺月見坂入り口付近にもともされた。

観自在王院跡では、大学生らの協力も得て、ハス、天の川、人気アニメキャラクターなどの形に灯籠を配置し、午後6時30分に点火。会場では中尊寺総務部次長の破石晋照さんによる法話が行われたほか、8時すぎには「平泉大文字送り火」を遠望してのロケーションとなった。

曰が暮れ始めると明かりは一層際立ち、観光で訪れた東京都墨田区の加藤豊和さん(47)と長女しいなさん(12)、長男碧流君(10)家族は「とてもきれいな」と仲良く温かな光を眺めていた。



観自在王院跡にももされた「浄土のあかり」を眺める来場者